

# 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和4年11月25日（金）午前9時30分から

会 場：アオーレ長岡 東棟4階 大会議室

## 【会見項目1：性自認・性的指向にかかわらず誰もが自分らしく暮らせるまちへ パートナーシップ・ファミリーシップ制度を実施】

### （市長）

まず、パートナーシップ・ファミリーシップ制度の実施についてです。

個性や多様性を認め合って、性自認や性的指向にかかわらず、その人権が尊重され、誰もが自分らしく生きることができる社会の実現を目指し、長岡市はパートナーシップ・ファミリーシップ制度を実施します。制度の開始は令和5年2月1日です。この制度は、性自認や性的指向によって婚姻の届け出ができない方々を対象に、お互いを人生のパートナーとして協力し合うことを約束する「パートナーシップ」の届け出を受け付け、市が証明書を交付するものです。また、パートナーシップ関係にある方の親族が家族として生活する「ファミリーシップ」の届け出に対しても、証明書を交付します。

パートナーシップの要件は、双方またはいずれか一方について、性自認が出生時に判断された性と一致しない、または性的指向が異性に限らないこと。双方が成年に達していること。少なくとも一方が市内に在住、または市内への転入を予定していること。配偶者または事実上の婚姻関係、パートナーシップ関係にある方がいないこと。双方が近親者でないことなどです。

ファミリーシップについては、パートナーシップの関係に加え、そのいずれかの親族を家族の関係として届け出るものです。

いずれも、必要書類を人権・男女共同参画課に提出することにより、手続きができます。この制度の実施により利用可能となる行政サービスは、まず、住民票の続柄について、パートナーシップについては「縁故者」、ファミリーシップについては「縁故者の子」などと表記します。また、家族として市営住宅への入居の申込みができるほか、軽自動車税の減免申請、子どもの保育園等への入園、教育や保育における給付認定の申請、犯罪被害者遺族見舞金の申請ができます。なお、生命保険の受取人の指定等、民間サービスで利用できるものもありますので、日常生活における不都合の解消に役立てていただきたいと思いますと考えております。

なお、今後も利用可能な行政サービスの拡大を図っていきたいと考えています。

### （記者）

この制度を来年2月から始める経緯についてお聞かせください。

### （市長）

以前から、私自身の考えとして、多様性を認め合う長岡にしていきたいということがありました。パートナーシップ制度についても当然やるべきだという考えを持っており、担当者においても全国的な調査などを行っていました。具体的な要望書の提出等はありませんが、メール等でこの制度の導入を求める声や、様々な問い合わせが数件来ているという状況にあります。

昨年に行った市民意識調査では、性的マイノリティの人権を守るために必要なことは何かという問いに対し、パートナーシップ制度の導入という回答が17.5%と最も多く寄せられ、早急に導入すべきだという判断でこのたび開始することとしました。

### （記者）

県内の他の自治体で行っている事例はありますか。

**(女性活躍推進担当部長)**

新潟市が令和2年から、三条市が今年9月から始めております。

**(記者)**

この制度を導入することへの期待などについてお聞かせください。

**(市長)**

長岡の大きな政策として、地域共生社会、市民協働、市民と一緒にこのまちの未来を作っていくというビジョンがあります。誰もがこうした中に参画して生活を充実させていくことは、基本的な要件だと私は思います。この制度の導入によって、性自認、性的指向で生きづらさを感じている方々が少しでも希望を持って、また自信を持って長岡市民として生活していただくことができればと思っております。

**(記者)**

要件や受けられる行政サービスについては、新潟市、三条市と違いはありますか。

**(女性活躍推進担当部長)**

新潟市はパートナーシップ制度だけを導入していて、三条市はパートナーシップ制度とファミリーシップ制度があります。そういう意味で、要件が違う部分はあろうかと思えます。

行政サービスの利用については、新潟市や三条市が整えているものについては、長岡市も2月までに整理をしていきたいということで資料に記載しております。

**(記者)**

行政サービスは2市とイコールということですか。

**(人権・男女共同参画課長)**

2市とイコールではなく、新潟市は対応していないけれども、三条市では対応している部分などがあり、新潟市と三条市でカバーしているところは違っておりますが、両市が対応しているサービスについては、長岡市はいずれも対応するよう整理しました。

**(記者)**

パートナーシップを解消する時に届け出は必要ですか。また、それによって市営住宅に入居できなくなるということはあるのでしょうか。

**(女性活躍推進担当部長)**

パートナーシップを解消する場合は届け出をしていただき、パートナーシップ制度の届け出後に手続きをしたサービスについては、それぞれその旨を連絡していただくことになります。

**(記者)**

連絡をするとサービスが受けられなくなるということですか。

**(女性活躍推進担当部長)**

それぞれサービスの条件によって異なります。

**(記者)**

関連して、市の届け出や申請書類からも性別欄は一切なくしている状況ですか。

**(女性活躍推進担当部長)**

届け出等の性別欄については、それぞれの事業の中で必要ないものはなくしていこうという動きは以前からありました。必要なものは残っております。

**(記者)**

届け出の際の必要書類について教えてください。

**(人権・男女共同参画課長)**

パートナーシップ・ファミリーシップの届出書と、独身であることの証明または家族関係がわかる証明等を予定しています。

**(記者)**

独身であることの証明は、戸籍などですか。

**(人権・男女共同参画課長)**

具体的には戸籍の証明書や、独身証明書というものもありますので、そういったものを提出いただくことになります。

## 【会見項目 2：より対面に近いオンライン相談の実現へ 日本精機㈱が開発したデジタル新製品を試験導入】

### (市長)

次の項目は、日本精機株式会社が開発したデジタル新製品の長岡市役所窓口への試験導入についてです。

このたび日本精機株式会社から、同社が新たに開発した視線一致カメラシステム「テレイズ」を市の業務で活用してほしいという申し出がありました。同社のご好意でシステム2機を無償で貸与いただけるということで、市の窓口におけるオンライン相談業務で試験的に活用したいと考えております。

現在、戸籍や国民健康保険料等の相談のために市民が支所の窓口に来庁した場合、必要に応じて本庁の職員がWeb会議システムを介して支所の窓口対応をしていますが、ディスプレイに映る相手に向かって話をすると、カメラの位置とのずれが生じるため視線が合いにくいという現象がありました。本システムを利用すると、対面相談の基本である相手の目を見て相談する、受け答えをするという基本が実現できるということです。より対面に近い形でオンライン相談ができるため、市民の皆様から安心感を持って相談いただけるものと期待しています。

試験導入の対象業務は、戸籍、国民健康保険料、後期高齢者医療保険料の納付に関する相談です。システムの設置場所は、アオーレ長岡東棟1階の市民課と国保年金課です。期間は12月5日から当分の間です。こうした相談業務のほかにも、庁舎間で打ち合わせをする職員のWeb会議等への活用も検討していきます。試験導入後は、運用の状況や効果等を検証した上で、本格導入していきたいと考えているところです。

イノベーションを推進している長岡市としましては、このような新しい技術が長岡で開発されたことを大変嬉しく思っております。テレイズをはじめとして、長岡発の商品が数多く生み出され、今後も長岡の企業の高い技術力が内外に発信されていく、商品が販売されていくことを非常に期待しているところです。市といたしましても、できる限りそういった商品を活用し、開発や販売、PRに対する協力をしていきたいと考えております。

私からは以上ですが、引き続き日本精機株式会社執行役員の宮沢様から、製品の特徴、概要についてご説明をお願いします。

### (日本精機株式会社執行役員)

まず、テレイズ開発の経緯についてご紹介します。弊社では車のスピードメーターのほか、フロントガラスにスピードなどを映すヘッドアップディスプレイを開発、販売しています。

毎年弊社ではアイデアコンテストを行い、社員から新製品のアイデアを募る活動を行っております。その中で、ヘッドアップディスプレイから着想を得て、視線をなるべく動かさずにコミュニケーションを取るという部分がテレイズにつながっています。

キーワードとしては、視線を一致させること、コミュニケーションの向上が図れることです。従来の通話、ビデオ会議、リモート会議、面接等でも利用できるかと思えます。例えば、相手がパソコンの画面を見ていると自分を見ていないように見える、あるいはカメラを見て相手にしゃべるとディスプレイ上の相手の姿が見えなくなるということで、同時に見ることはできませんので、やはり少し煩わしさや違和感があるものと思えます。

長岡市におかれては窓口業務で既にWeb会議システムを使用しているということですが、そのあたりでお役に立てればと考えております。特に窓口業務は初対面の方が多いと思えます

ので、有効に活用いただけるものと思います。

続きまして、テレイズの構造について説明します。こちらにシステムを2台置いてありますが、斜めになっている部分にハーフミラーがあります。ちょうど画面の真ん中の裏側にカメラを取り付けてあり、そこを透かして職員を映す形になっております。また、対話する時に表情が良く見えるように、フレームのところに照明を用意しています。照明をつけると、より一層表情が明るく見えると思います。対話の相手の顔の位置にカメラがあることで、カメラの向こうにいる相手を見る感覚で業務ができると思います。視線不一致の解消によってコミュニケーションの改善を図るというコンセプトでやってまいりました。テレイズをリモート業務や窓口業務、Web会議など様々な場面でご活用いただければ幸いです。

ここで少し実演を行います。今モニターに映っている画面は、支所に来庁した市民から見た市役所職員の様子です。ハーフミラーの反対側にあるカメラの位置に相手の顔が映っていますが、そこを見つめている状態であれば、まっすぐ前を見ている状態で相手から見られていることとなります。今までのWeb会議の場合だと、パソコンは大抵上部にカメラがあり画面はその下にありますので、相手の顔を見ると視線は当然下がりますし、顎を引いたような形でちょっと表情も良くないのではと思います。画面を見たりカメラを見たりということを繰り返しますので、相手には非常に落ち着きのないように見えると思います。このシステムで正面を見ていただくと、視線が一致しますので、話を聞いてもらえているという感じがあるのではないかと思います。商品のご紹介は以上です。

(記者)

磯田市長はテレイズを試されましたか。

(市長)

試しました。

(記者)

試してみてもの所感を教えてください。

(市長)

私自身、Web会議システムにより外部の方との打ち合わせや会合に出席することがありますが、常にどこを見たらいいのかが非常に気になって、画面に映っている相手の顔を見つめながら話すと、カメラは別のところにあるので、相手にはどのように映っているのか気になっていました。できるだけ画面の中心とカメラの位置が一致するといいなと思っていましたが、モニターの裏にカメラを配置してカメラ視線で相手に映るということに大変驚きました。

相手の目を見て話せるということは、相手とつながる意識が強くなると感じますし、それは相手の反応からもうかがえると実感したところです。

(記者)

市民課と国保年金課の共用スペースに1台ずつ設置するということですが、支所に市民が来庁した時に対応するということですか。

(市長)

そういうことになります。

(記者)

今回は試験的に2台導入するということですが、支所側のパソコンは通常のパソコンですか。

(市長)

そういうことになります。

(記者)

これからさらに台数を増やしていくということもあり得るということですか。

(市長)

そう考えています。現在も支所と本庁間でWeb会議システムにより戸籍と国民健康保険料、後期高齢者利用保険料の3つの相談業務を行っていますが、他にも相談があるため、将来的に

は拡大していきたいと思っています。今後、支所業務そのものの見直しの中で、専門的な職員を配置することが業務量に比べて不合理となる場合もありますので、できるだけWeb会議システムで、相談業務や届け出の受け付けも含めてできるだけ本庁の専門的な部署が対応できるようにしたいということですが、市民の方がWeb会議システムで安心して相談できるという実感を増やしていかなければならないと思っています。

(記者)

日本精機さんに質問です。これは既に商品化され販売されているものでしょうか。販売されているのであれば価格を教えてください。

(日本精機株式会社執行役員)

本製品はまだ開発中で、試験運用をお願いしております。その中で、仕様の追加になるもの、いらぬものということがありますので、それを改めて仕様に織り込んだ上で販売ということになります。販売時期は未定です。価格については検討した上で、今申し上げられることは、お求めやすい納得できる価格ということと考えております。

## 【その他の質疑応答】

(市長)

その他の質問をいただく前に、今朝ほど入った情報をお伝えしたいと思います。

今朝、長岡市鳥越クリーンセンターで、委託事業者であるアイテック株式会社の社員が事故により亡くなりました。現在、事故原因等の詳細について警察が捜査中で、市としても詳細がわかり次第、皆様にお知らせしたいと考えております。市の業務に関するところの事故で亡くなられたということで、心からご冥福をお祈りしたいと思います。

(記者)

これは鳥越クリーンセンターでの事故死ということですか。

(市長)

作業中の事故死です。

(記者)

新型コロナウイルスへの感染が県内で拡大していますが、特に病床使用率など長岡市内の状況はいかがでしょうか。

(市長)

このところ感染拡大の兆候があり、ピークアウトしたという見方もあるようですが、私としては、今後の年末年始など、感染拡大の可能性は強いと見なければならぬと考えています。

市内の病床使用率は満杯状態ということではないものの、基幹3病院の使用率は高くなってきていると聞いております。今後、感染が急拡大したときには、相応の対応を取るよう長岡市医師会から要望を受けております。現状は要注意ということで医師会の見解が出ており、今後の推移をよく見てほしいという申し入れをいただいております。

(記者)

市として日々の感染者数の把握はしていますか。

(市長)

11月7日から11月13日までの1週間の感染者数が1,511人、10万人当たりで566人、1日平均で215.86人、感染者数の前週比は1.05倍です。落ち着いている感じはしますが、これが2倍、3倍となったときにはある意味で緊急の事態ですので、行動抑制等の呼びかけも含めて、県と相談しながら長岡市としても考えていきたいと思っております。

(記者)

年末年始に向けて会合が多くなると思いますが、現時点で会合を控える、人数を縮小するなど、何か注意を呼びかけていく段階とお考えですか。

(市長)

そこまでには至っていないと思います。行動抑制の要請までは必要ないと判断しております。ただ市民の皆さんに呼びかけたいのは、例えば発熱がある、喉が痛い、体がだるいといった症状が出たときには、会合や仕事、子どもであれば登園、登校は控えてもらいたいということです。症状が出たら自宅から出ないという原則は、ぜひ守っていただければと思います。